

今回のテーマは「持続可能な町内会」です。

札幌市には約2,200の町内会・自治会があります。その一つひとつの町内会では、わがまちをより暮らしやすくするために、いろいろな活動に取り組んでいます。

ただ、その活動内容を実際に知る機会は少なく、「他の町内会はこの問題にどう対処しているのだろう?」と思う方も多いと思います。このため町内会に実際

に訪問し、お話を伺った「リアル」を皆さまにお伝えしようと作成したのがこの「SAPPOROマチトモ通信」です。

今回は、高齢化が進む昨今の町内会において、「持続可能な町内会運営」を考え、行動する2つの町内会をご紹介します。町内会の形はさまざまですが、少しでも皆さまの町内会運営の参考にいただければ幸いです。

インタビュー①

菊水1条1丁目町内会 会長 佐藤 義博 さん 青年部長 苫米地 佑汰 さん

高校生役員 現る!?

～そこには地域への愛着と、「楽しい」があふれていました～

白石区の「菊水1条1丁目町内会」の会長・佐藤さんが、当時高校2年生だった苫米地さんを青年部長に抜擢したのは2年前のこと。その背景や、若い世代の町内会活動への参加などについて、佐藤さんと苫米地さんにお話を伺いました。

町内会は楽しいイメージしかない

——苫米地さんにとって、そもそも町内会とはどんな存在だったのでしょうか。

苫米地さん 「小さい頃から自然と町内会活動に関わっていました。以前、曾祖父が会長をやっていたため、家の中には町内会の備品があったし、よく手伝いもしていました。行事にも年1回以上は参加していて、町内会はとても身近な存在でした。」

——部活や勉強が忙しくなり、町内会行事に参加しなくなる友達も多いなか、参加し続けてきたのはなぜでしょうか?

苫米地さん 「町内会は、学校とは別の、本当に親しい人たちがみんなのために行事を考えて実行しているイメージ。町内会はあたりまえにあるもので、町内会と関わることは楽しいものだと思います。だから、顔見知りだった佐藤会長から役員に誘われた時も、あまり抵抗はありませんでした。」

——幼少期から慣れ親しんだ町内会には、楽しいイメージしかない。だからこそ、参加者としての関わり方の延長線上にあるものとして、役員

を受け入れられたのかもしれませんが。

苫米地さん 「町内会はとにかく楽しいことが大事だと思います。自分だったら、行事で使うテントの設営や子どもたちと遊ぶことが楽しい。学校ではできない経験が町内会ではできるので、楽しく遊びながら、運営をついでにやっているという感覚です。大変と感じたことはありません。」

——気負わず楽しくポジティブに役員を務めている苫米地さんですが、さらなる町内会の活性化に向けて、感じていることもありました。

町内会行事は参加のきっかけに

苫米地さん 「行事、特に子ども向けの行事が少ないと感じます。自分自身も行事をきっかけに町内会活動へ参加していたので、行事は若い人が関わるきっかけになると思います。」

また、大人になるにつれて、運動会や小さな子どもとのふれあいの

機会が減っていくので、町内会ではそういった経験ができるのも、良いところだと思います。

今年は町内会でいちご狩りに行きたいんです。」

——そんな苫米地さんを温かい目で見守る会長の佐藤さんに、若い世代に対する思いを聞いてみました。

若い人の目線で町内会を見てほしい

佐藤さん 「学生や働き世代の人には、学業や仕事に支障のない範囲で町内会に関わってもらいたいと思っています。まずは、若い人の目線で、横から見てもらうことが大事。高齢の役員だけで運営しているとマンネリ化するため、新しい視点で町内会を見てみるきっかけが必要なんです。」

いちご狩りも、苫米地くんが行きたいと思うなら、若い世代に同じような感覚の人もいるだろうということで、できるだけ実現させたいと思っています。」

——若い感覚で新たなアイデアを出す苫米地さんと、それを柔軟に受け止める佐藤さん。お二人の関係性が、町内会の活性化に直結しているように感じられました。

そして、お二人に町内会の今後について聞いてみると、口をそろえてこんな回答が。

町内会の存続のために、魅力ある取組を

佐藤さん・苫米地さん 「町内会をなくしてはだめ。存続していくために、根気強く、町内会に関心を持つ



▲ 避難訓練の様子

避難訓練で車椅子の方の避難を手伝う苫米地さん（写真左から2人目）。町内会のベストを着用し、町内会活動の周知も行っています。

てもらえるような取組にチャレンジしていきたい。」

——そのためには、町内会の活動について知ってもらうことが第一。町内会のベストを着用して避難訓練を実施したり、防災庫の設置やゴミステーションの整備に力を入れたりするなど、活動が見えやすくなるような工夫をしているそうです。

また、情報発信も重要だと考えており、SNSの活用も視野に入れているとのこと。これには若い世代の協力を期待しているそうです。

あたりまえの存在だった町内会。でも、今後も継続させていくには、住民に必要なと思われる存在であり続けなければならない。そんな思いで、試行錯誤しながら意欲的に活動している菊水1条1丁目町内会でした。

菊水1条1丁目町内会

- 加入世帯数：約 570 世帯
- 住居形態：集合住宅が約 8 割（賃貸が多い）
- 高齢化率は減少傾向（約 20%）



▲ インタビューの様子

会長の佐藤さん（写真左）と青年部長の苫米地さん。それぞれの目線から、町内会への思いを語っていただきました。

連合町内会の恒例行事を廃止！

～苦渋の決断は、前向きな変化の第一歩です～

豊平区の「中の島地区町内会連合会」（以下、「町連」）では、事業の見直しにより、毎年恒例となっていた行事の一つを思い切って廃止する決断をしました。その背景やプロセス、そしてその先に見据えることとは…？総務部長の北村さんにお話を伺いました。

事業見直しの背景

——この町連は、10の単位町内会（以下、「単町」）で構成されています。中の島地区の南北に約2.5 km伸びているという地域特性から、町連としての合同行事が行いづらいといった課題があります。また、高齢化している役員の負担軽減も課題となっていました。

北村さん 「8～9月に行事が集中し、高齢の役員には相当な身体的負担があるという声があがっていましたので、事業を見直すべきと考えました。ただ負担軽減のためだけでなく、一部役員からは、『大規模な行事をやるのが町連本来の活動なのか？』との疑問も出ていたことから、町連の役割自体も検討し、見直していくことの必要性を感じました。」

——そこで、見直しの対象となっ

たのが、毎年9月に開催している「中の島オータムフェスタ」。規模が大きい行事で、近年は準備にかかる人手を確保するのに苦慮していました。また、会場が町連区域の北側にあり、南側の住民からの参加が少ないことも、理由となったそうです。

中の島オータムフェスタの見直しを検討

北村さん 「見直し対象に挙げたものの、この行事は地域に定着していて、毎年楽しみにしてくれている方も多いことから、廃止にするという決断は難しいものがありました。しかし、このまま継続しても役員の全面的な協力は得られず、他の活動にも影響すると考えたため、このタイミングで見直すことを決断しました。」



▲中の島オータムフェスタの様子

——廃止論がある一方で、この行事の継続や拡大を求める声もあったことから、見直しの検討は、3つの段階を踏んで丁寧に進めていったそうです。

第1段階

町連総務部長会議（単町総務部長で構成）で議論→その結果を踏まえて各単町で議論→各単町の結果を町連総務部長会議で共有→廃止方向へ流れが見えてきた

第2段階

改めて各単町で存廃について議論→結果として町連総務部長会議において8：2で廃止論が優勢

第3段階

町連会長会議で廃止について諮り異議なし→町連役員会議で廃止について諮り承認→R2年度から中の島オータムフェスタの廃止が決定

町連の役割を見つめ直す

北村さん 「まずは中の島オータムフェスタの廃止を決定しましたが、これからもっと根本的なこととして、町連の真の役割や機能とは何かを十分議論し、その線に沿った活動をしていくことを目指していきます。行事の開催は手段であって



▲事業の見直しについて語る北村さん

目的ではありません。『これまで取り組んできたから毎年続ける』ではなく、『地域の実情やニーズに応じた役割を担っていく』という視点を町連全体で持つことが必要だと思っています。今後は、住民へのアンケート調査を行い、ニーズを集めながら具体的に議論を行っていきます。」

——異なる事情や特色を持つ各単町の意見を丁寧に汲み取りながら町連全体の方針を取りまとめているのは、決して楽なことではありません。でもそれは、地域住民にとって住みよいまちであり続けるための、町連ならではの大切な役割だと言えるでしょう。

求められる役割とは何かを追求し、変化を厭わず前に進もうとする姿が頼もしい、中の島地区町内会連合会でした。

中の島地区町内会連合会

- 町内会数：10 単位町内会
- 加入世帯数：約 6,000 世帯
- 住居形態：戸建てと賃貸集合住宅が混在
- 地域特性：南北に細長い（東西約 300m、南北約 2,500m）

これからの時代を見据えた事業の見直しを実践してみませんか？

中の島地区町内会連合会と同じように、事業の見直しに取り組んでいる町内会は他にもあります。ここでは単位町内会の取組事例を紹介します。

手稲区の「カシオペア町内会」は、築 27 年のマンション1棟で構成されている町内会です。住民の高齢化が進んでいるため、今後を見据えて、「高齢者の見守り」と「災害時の助け合い」の取組を進めていくことになりました。

しかし、規模の小さな町内会であるため、新しく事業を増やすほどの人

的余裕はありません。そこで、事業や部の役割を見直した上で、新たな交流事業を企画し、助け合いのための絆づくりを進めていくことにしました。

事業の見直しでは、各部の年間スケジュールを一覧で作成し、どの時期にどの部がどのようなことを行っているのか、負担は偏っていないかなどを確認しました。そして、その結果を踏まえて部や事業を統廃合しました。

この過程を経て洗い出した各部の役割については、役員マニュアルとして取りまとめ、役員の引き継ぎなど今後の運営の効率化にも活かしていく予定です。

町内会アドバイザー派遣制度について

札幌市では、町内会加入率の低下や担い手不足などの課題を抱える町内会・自治会に対し、アドバイザーを派遣して、解決に向けた取組を支援しています。

令和元年度は 10 地区から申し込みがあり、各地区の特性や状況に応じた支援を行いました。この紙面で紹介したカシオペア町内会も、この制度を活用して事業の見直しを進めました。

令和2年度は、8月頃にアドバイザー派遣先の募集を開始する予定です。

<令和元年度の主な支援内容>

事業の見直し、見える化	事業や組織の役割の見直し、役員マニュアルの作成
組織体制の強化	サポーター制度や役員輪番制の導入に向けた検討
情報発信の強化	SNS（Facebook や LINE）の活用、町内会ガイドの作成
住民ニーズの把握	住民向けアンケート調査の実施・結果の分析
活動への住民参加の促進	住民交流イベントの企画運営

素敵な

町内会・自治会の取組をお伝えする情報紙

SAPPORO マチトモ通信



このロゴマークは地域の安心と笑顔を支えている町内会をイメージして、札幌市が制作しました。



さっぽろ市
02-002-19-2876
31-2-1825